

安全ニュース

蜂刺され！！9月・10月は危険な時期

緊急注意報

蜂刺されは9月・10月は危険な時期です。

他県ではシルバー会員の死亡事例も

公園内の草刈り作業で、昼食後、石垣内の草刈り作業に入ったところ蜂に刺され、意識をなくし倒れたが、他の会員は蜂に刺されたことを知らず熱中症を疑い体を冷やし、救急車を依頼したが、入院後、アナフィラキシーショックにより亡くなられた。（昨年8月の全シ協重篤事故速報）

県内では昨年27件の蜂刺され等の事故が発生。アナフィラキシーショックで緊急搬送事例も過去発生しました。

草刈り作業中、作業場内の松の木に作られていた蜂の巣に接触したところ、蜂に刺された。蜂のアレルギーがありエピペンで処置したがアナフィラキシーショックで意識が朦朧として救急搬送され入院した。（入院見込4日）

2022年8月全シ協安全就業ニュースより

令和3年度の統計で「蜂、犬、蛇等に刺され、噛まれ」の事故は900件発生し、事故総数の19%となっています。

蜂に刺された場合に蜂毒にアレルギーがなければ刺された箇所に軽い痛みやかゆみ、腫れ等が起こり何日かで消えていきます。しかし、蜂毒アレルギーがあると刺された人の10%くらいが、全身のじんましんなどの皮膚炎症や嘔吐、呼吸困難などが起こるアナフィラキシーショックを引き起こすと言われていています。そのうち数%は意識障害や急な血圧低下によるアナフィラキシーショックを起こすとされ、命の危険がおよぶ確立が高くなります。また、過去に蜂に刺されたことがある方は抗体検査をしておくことをお勧めします。抗体がある場合は就業を控える、救急対応器具（蜂毒吸引機）を携行するなどの対応をお願いします。

夏から秋にかけて蜂が多く発生する場所での就業は皮膚の露出を出来る限り控え、黒地の着衣や香水、化粧品等で匂いのするものは避け、蜂駆除スプレーを携行し事前に就業場所に蜂がいないかの下見をするなど確認をしてから作業にあたって下さい。

蜂に刺された場合、流水で傷口を洗い流し、アナフィラキシーを疑う症状（発疹、めまいなど）が出たら、すぐに119番通報をして救急車を呼んでください。自分の身を守る行動と事前の確認を怠らないようお願いいたします。また、一人での作業はやめましょう。

1. 蜂の種類とその対応

(1) 蜂の巣や蜂が餌を取っているとき等は、近付かない

蜂に刺される危険な時期

スズメバチ 7月～10月 アシナガバチ 7月～8月 ミツバチ 1年中

(2) 蜂が近付いてきたら、早く危険区域から遠ざかる

スズメバチの4段階の攻撃

- ① 巣への接近に対する警戒（周囲を飛び回る）
- ② 巣への接近に対する威嚇（高い羽音を発して、上下、左右をまわりつくように飛び回る）
- ③ 巣に間接的刺激を与えたときの攻撃（巣から多くの蜂が飛び出し攻撃）
- ④ 巣に直接的刺激を与えたときの攻撃（威嚇なしに相手にすぐ刺す。相手の身体に噛みつき離れず何度も毒針を刺す）



(3) スズメバチは、黒地の着衣、毛皮等に反応

し、巣の近くで攻撃を加えるので、蜂を刺激するような衣類、匂い等はさけること

- ① スズメバチは、黒いものに激しく反応し攻撃する。ミツバチは色にはあまり反応しない
- ② 匂い等はヘアスプレー、ヘアトニック、香水等の化粧品、体臭等に敏感に反応する
- ③ ミツバチは、巣の位置に関係なく各種化粧品の匂いに興奮することがある
- ④ スズメバチは、ジュース等の飲料水は残りの液を餌にしていることがあるので、屋外での飲食は蜂に注意する

(4) 蜂が毎年発生する場所で作業をする時は、顔面を保護するための防蜂網を着用すること（身体を露出させない）

2. 蜂に刺されたときの症状と応急処置

(1) 蜂に刺されたときの症状には、刺された箇所の周りにだけ現れる局所症状と全身症状があるので、症状をよく観察し、直ちに適切な応急処置を行うこと

① 軽い全身症状

全身の皮膚が赤くなり、かゆくなったり、身体がだるくなったり、息苦しくなったりする

② 中程度の全身症状

軽い全身症状に加えて胸が苦しくなったり、口がしびれたり、腹痛、下痢、吐き気を起こしたり、頭痛やめまい、全身がむくんだりする

③ **重い全身症状（アナフィラキシーショック）**

息苦しく、ものを飲み込めなく、声がしわがれ、全身の力が抜け、その場にうずくまってしまう 目が見えづらくなり、耳が聞こえづらくなったりする 意識が無くなったり、手足にけいれんを起こしたりして死に至る場合もある
急いで医療機関を受診する



注)

- 以前に蜂に刺された経験のある人は、「次の一刺し」を受けると危険です
- 蜂に刺された経験のある人が蜂の発生しそうな場所での一人作業は、とりわけ注意が必要です

(2) 蜂に刺されたときの応急処置

- ① その場を離れてハチがいなくなるまで逃げる（威嚇しないように）
- ② 毒針が残っていたら、直ちに引き抜き、患部の血液と毒液を絞り出す（毒吸引器（ポイズンリムバー）が望ましい 口で吸い出す事はやめた方がよい）
- ③ 冷水で患部を冷やす
- ④ 赤くはれ始めたら、抗ヒスタミン軟膏を塗る

(3) 症状が悪化した場合（患者を運ぶときは、できるだけ動かさないよう担架で）

下記の場合は、「119」番の連絡を行い、一刻も早く医師の手当てを受ける

- ① 初期症状として、発疹、流涙、せき、おう吐、下痢等の症状がある場合
- ② アレルギーの有無にかかわらず、首や頭を刺されたとき、または何匹ものハチに刺されたとき
- ③ アナフィラキシーショックを疑う症状が現れたとき

令和4年度
安全就業標語

佳作

『まんねり』が 安全意識 にぶらせる』

（上田地域シルバー人材センター 蓬田 美枝子さん）

公益社団法人 長野県シルバー人材センター連合会

〒380-0841 長野市大門町51番地1 柏与ビル3階

Tel : (026)237-4680 Fax : (026)237-5665